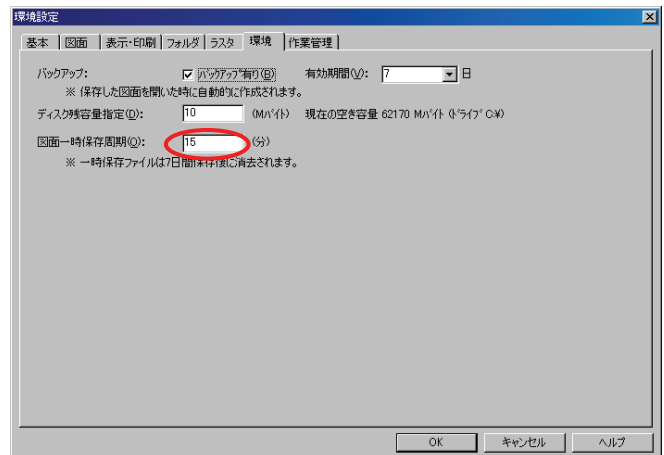


図面一時保存

作業中に何らかの原因で正常終了できなかった場合、作業中の図面を復元することができます。ただし、正常に復元できなかった場合、復元しないで Tfas を起動してしまった場合、誤って図面を保存しないで閉じてしまった場合は、一時保存されたファイルがあれば図面として読込むことができます。

その１ 図面一時保存の設定をする

- ① メニューバー[設定]-[環境設定]をクリックします。【環境設定】ダイアログが表示されますので、「環境」タブをクリックします。
 - ② 「図面一時保存周期」に自動的に保存する周期(分)を入力します。
 - ③ 〈OK〉ボタンをクリックして、ダイアログを閉じます。
- ※ 保存周期は 0～1440 分の間で設定できます。
(0 分に設定した場合は、一時保存されません。)
- ※ 一時保存されたファイルの保存期間は 7 日間です。



その２ 一時保存ファイルの読込み

- ① Windows の[スタート]ボタンを右クリックし、[エクスプローラ]または[エクスプローラーを開く]を選択します。一覧から下記の一時保存フォルダを開きます。
一時保存フォルダの場所は、Tfas のバージョン (ビルド番号) により異なります。メニューバー[ヘルプ]-[バージョン情報]で確認して下さい。

◆ Tfas2007 ビルド 543 以前の場合

C:\¥TFAS¥SYSTEM¥MASTER¥Temp

※ 「TFAS」フォルダは、Tfas をインストールしたフォルダです。

◆ Tfas2007 ビルド 833 以降の場合

[Windows 2000/XP の場合]

C:\¥Documents and Settings¥(UserName)¥Application Data¥Daitec¥Tfas¥110¥Temp

※ 「Application Data」フォルダが表示されない場合は、[エクスプローラ]のメニューバー[ツール]-[フォルダオプション]-[表示]タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」に切替えます。

[Windows Vista/7 の場合]

C:\¥Users¥(UserName)¥AppData¥Roaming¥Daitec¥TFAS¥110¥Temp

※ Windows Vista で「AppData」フォルダが表示されない場合は、[整理]ボタン-[フォルダと検索のオプション]-[表示]タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」に切替えます。

※ Windows 7 で「AppData」フォルダが表示されない場合は、[整理]ボタン-[フォルダと検索のオプション]-[表示]タブで「隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する」に切替えます。

※ Users フォルダは、カタカナで「ユーザー」と表示される場合があります。

※ (UserName) フォルダは、パソコンにログインした時のユーザー名です。

◆ TfasⅢビルド 1531 以降の場合

〔Windows 2000/XP の場合〕

C:¥Documents and Settings¥(UserName)¥Application Data¥Daitec¥Tfas¥

※「Application Data」フォルダが表示されない場合は、[エクスプローラ]のメニューバー[ツール]-[フォルダオプション]-[表示]タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」に切替えます。

〔Windows Vista/7 の場合〕

C:¥Users¥(UserName)¥AppData¥Roaming¥Daitec¥TFAS

※Windows Vista で「AppData」フォルダが表示されない場合は、[整理]ボタン-[フォルダと検索のオプション]-[表示]タブで「すべてのファイルとフォルダを表示する」に切替えます。

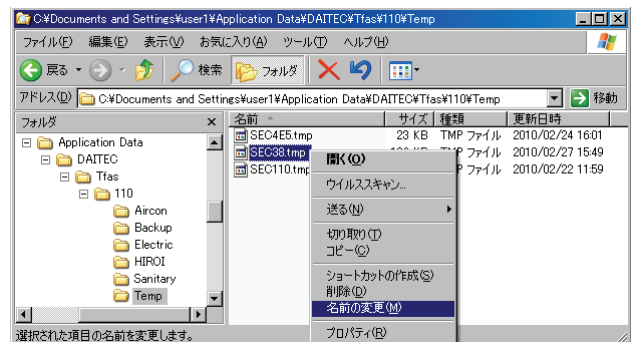
※Windows 7 で「AppData」フォルダが表示されない場合は、[整理]ボタン-[フォルダーと検索のオプション]-[表示]タブで「隠しファイル、隠しフォルダー、および隠しドライブを表示する」に切替えます。

※Users フォルダは、カタカナで「ユーザー」と表示される場合があります。

※(UserName) フォルダは、パソコンにログインした時のユーザー名です。

- ② ファイル名は「SEC～.tmp」です。ファイルを右クリックし、[名前の変更]を選択します。拡張子(.tmp)を半角英字で「.tfs」に変更すると、図面として展開することができます。

※一時保存ファイルには元図面のファイル名が表示されませんので、ファイルの更新日時を参考に判別して下さい。



図面バックアップ

何らかの原因で図面ファイルの展開ができなくなった場合、間違ってお書き保存をしてしまった場合に、最初に図面を展開したときの状態で復元することができます。

その１ 図面バックアップの設定をする

① メニューバー[設定]-[環境設定]をクリックします。【環境設定】ダイアログが表示されますので、「環境」タブをクリックします。

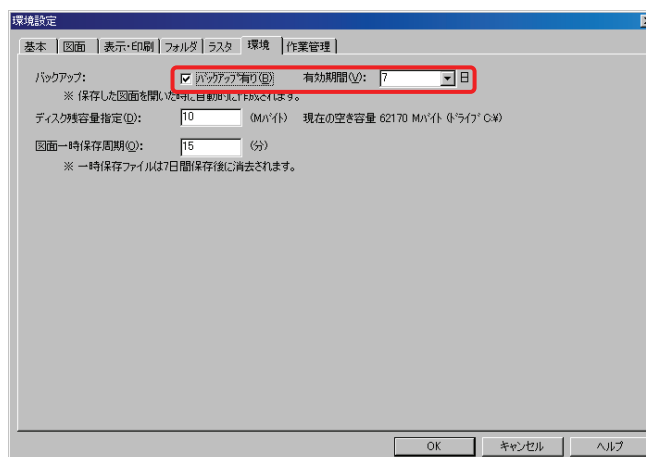
② 「バックアップ有り」にチェックを入れ、有効期間を入力するかリストから選択します。

※ バックアップファイルは、上記設定を行なった後、Tfas 図面を開くと自動的に作成（保存）されます。

※ 同一のファイル名が存在した場合は、上書きされます。

※ 上書き保存の際に、バックアップファイルは更新されません。

※ バックアップファイルは、作成日付から有効期間を経過すると自動的に削除されます。



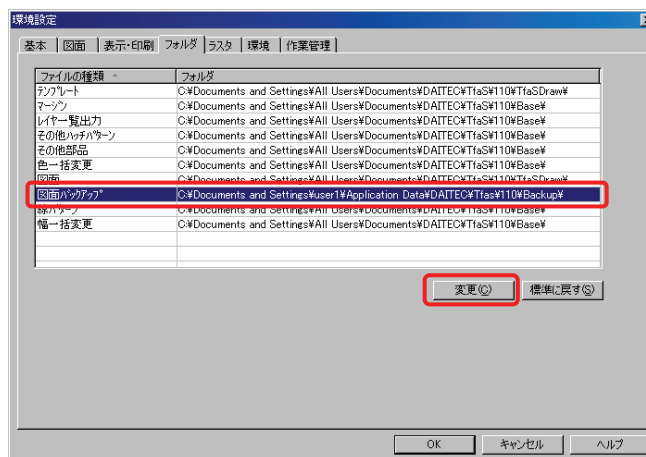
その２ バックアップフォルダの設定をする

① 【環境設定】ダイアログの「フォルダ」タブをクリックします。

② 「図面バックアップ」を選択し、〈変更〉ボタンをクリックします。

③ 【フォルダ選択】ダイアログが表示されますので、バックアップファイルを保存するフォルダを選択し、〈OK〉ボタンをクリックします。

④ 【環境設定】ダイアログに戻りますので、〈OK〉ボタンをクリックしてダイアログを閉じます。



その３ バックアップファイルの読み込み

① Windows の[スタート]ボタンを右クリックし、[エクスプローラ]または[エクスプローラーを開く]を選択します。一覧から〈その２〉で設定したバックアップフォルダを開きます。

② バックアップファイルは、ファイル名の前後に「BAK」が付加されています。ファイルを右クリックし、[名前の変更]を選択します。拡張子に付加されている「BAK」を削除すると、図面として展開することができます。

例：BAK 平面詳細図.tfsBAK → BAK 平面詳細図.tfs

※ バックアップファイルは、読み取り専用になっています。